

令和7年度 学校巡回公演

東京演劇集団風

学校 みんなでつくるミュージカル ほしのおうじさま

星の王子さま



がっこうじゅんかいこうえん
学校巡回公演

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

『星の王子さま』に出演する俳優たちからみんなへのメッセージ！



飛行士役
おがたかずのり
緒方一則

わたしたちはこんな劇団です！

僕たち東京演劇集団風は、自分たちだけの劇場を東京に持っていて、そこで演劇活動をしています。群馬県にはアトリエもあって、そこで合宿をしながら新しい舞台を創造しています。旅公演では日本全国をめぐり、海外での公演も行って、海外の芸術家たちとの交流もたくさんしています。風のように自由です。



花役
はなやく
しぶや 愛

みなさんと一緒にやりたいこと！

世界でたったひとつの劇場になったみんなの学校の体育館を、一緒に探検して秘密を見つけたり、思いきり遊びたい！そして「星の王子さま」の世界を冒険して、笑ったり涙を流したりしながら、心のなかにいつまでもキラキラと輝く最高の思い出になる一日をつくりたいです。

「星の王子さま」について☆

王子さまはいろんな星を旅しながら、たくさんの人に出会います。そのなかで、自分の星に残してきた花が、とっても大切な、かけがえのない存在であることを知っていきます。花のために星に帰る決心する王子さま。

みなさんの想い・勇気・希望を、私も一緒に王子さまに届けたいと思います！



キツネ役
くどうよりこ
工藤順子

どんな子ども時代を過ごしていましたか？

僕が子どもの頃、いつも学校の先生に叱られた。

僕が子どもの頃、友達とよく喧嘩した。

僕が子どもの頃、日が暮れるまで遊んだ。

僕が子どもの頃、1年間が過ぎるのがとても長く感じた。

僕が子どもの頃の思い出は、俳優になった僕の体の中でキラキラと輝いている。



へび役
くりやまともひこ
栗山友彦

わたしが演劇を始めたきっかけ

ちいさい頃から本を読むのが好きでした。高校生の時に演劇に出会い、「ひとりひとり違う持ち味の仲間と、みんなでひとつの劇をつくるって楽しい！」と知って、俳優になりたいと思いました。

物語に登場する人たちがみんなに役割があるように、この舞台はみなさんが主役！『星の王子さま』と一緒に旅をして、大切なものを探してみてください。



王子さま役
しらねゆうこ
白根有子

とうきょうえんげきしゅうだんかぜ

東京演劇集団風 —— 未だ形を採らない豊かさを求めて

1987年に創立。この名前には“自由に風のようにものをつくる”という思いが込められています。東京・東中野に劇場〈レパトリーシアター KAZE〉があり、劇団員約30名で国内外のアーティストとの交流や共同制作も行っています。

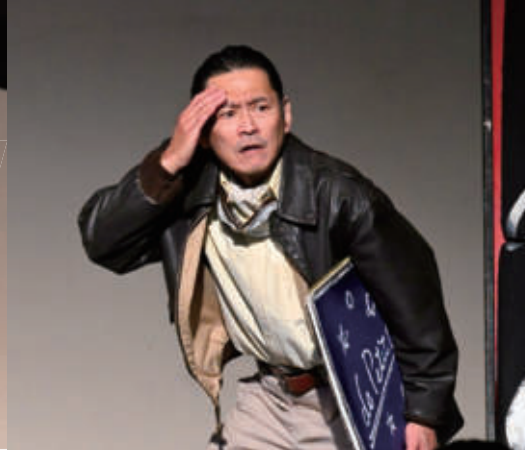
全国の子どもたちを対象とした巡回公演にも力を注いでいて、特に『星の王子さま』は劇団の代表作です。2019年からは誰もが一緒に楽しめる「バリアフリー演劇」の上演を開始しました。

〒164-0003 東京都中野区東中野 1-2-4
Tel 03-3363-3261 [代] Fax 03-3363-3265
E-mail info@kaze-net.org HP kaze-net.org



劇団ホームページ





星があんなに美しいのも、目に 見えない花がひとつあるからなんだよ――

東京演劇集団風の ミュージカル 星の王子さま

キャスト

王子……………白根有子
飛行士……………緒方一則
キツネ……………工藤順子
花……………渋谷愛
ヘビ など……………栗山友彦 ほか

スタッフ

音楽……………八幡茂
演出助手……………江原早哉香／西垣耕造
舞台美術……………松井るみ
照明……………坂野真也
音響……………酒見篤志
衣裳……………出川 淳子
振付……………郡司行雄

ちっぽけな星にひとりで住んでいる王子さま。
ある日、その星にきれいな一輪の花が咲きます。
王子さまは喜んで、花と仲良く暮らしますが、ある時ちょっとしたことで

けんかになってしまいます。
そして王子さまは、自分の星を飛び出して、星を巡る旅に出かけます。
王子さまは、さまざまな大人たちと出会いますが、なかなか自分が

住みたいと思う星が見つかりません。
最後に地球にやってきた王子さまは、砂漠で飛行士と出会い、
一緒に旅を続けます。飛行士や一匹のキツネと友だちになることを通して、
誰にでも“かけがえのないもの”があることを知った王子さまは、
花が自分にとって大切な、守らなければならない存在だと気がつきます。

そして成長した王子さまは、飛行士と地球に別れを告げて、
花のために自分の星に帰ろうと決心するのです。

フランスで生まれた作者サン＝テグジュペリは、1943年、第二次世界大戦の

さなかに、この小さな少年の物語『星の王子さま』を書きました。
大きな戦争の時代を経験したサン＝テグジュペリは、この作品に、
“物事の奥深くにある真実を心で見たい”“思い出や美しいものを

感じる心を大切にしたい”という想いを込めています。
懸命に生きる小さな王子さまの勇気と、美しさや、はかなさが
描かれているこの物語の世界を大切に、
『星の王子さま』を上演しています。

“日本のすべての子どもたちへ”

東京演劇集団風の『星の王子さま』の上演活動に共感した
サン＝テグジュペリの遺族から日本の観客に届けられたメッセージ

日本の小さな子どもたちよ、あなたがたの勇気は、この星ぜんたいにとってのお
手本です。太陽がまた輝きだすという希望を失わないでください。あなたがたは
わたしたちからはあまりに遠く離れているので、この目であなたがたを見るこ
とはできません。でも心の目で見る事ができるのです。そして言わせてくださ
い。星の王子さまはあなたがたとともにいて、あなたがたを助けてくれます。彼
は世界のすべての子どもたちの友だちです。彼はあなたがたの友だちなのです。
――心からの友情を込めて

フランソワ・ダゲイ François d'Agey
(サン＝テグジュペリ財団理事長 Succession Antoine de Saint Exupéry)

